

2023

9/1

September
No.419

市報 ちまぐち



特集	地域と共に進めるまちづくり	2
	■ 地域で見守る「認知症」～広がる支え合いの輪～	6
	■ 市政トピックス	8
	■ 県央連携都市圏域の魅力を紹介「山口ゆめ回廊」	9
	■ 新型コロナワクチン接種に関するお知らせ	10

みんなが参加する 未来へつなぐ多様な地域づくり

～人をはぐくみ、あらゆる世代が共に生きる～

後期推進計画では、「みんなが参加する 未来へつなぐ多様な地域づくり ～人をはぐくみ、あらゆる世代が共に生きる～」をテーマに、農山村やまちなかといった特色や個性あふれる地域に住むあらゆる世代の人々が、地域への愛着や思いを共有し、お互いに手を携えて地域の営みに関わり、将来にわたって共に豊かで安心して暮らし続けられるまちを目指します。

特に**重点的に対応していく3つのプロジェクト**を定め、優先的に事業を展開していきます。

01 地域づくり活動の活発化プロジェクト

- 持続可能な自治会等地域コミュニティ活動の促進
- 人と人の交流につながる地域活動の活発化



02 地域の未来を担う人づくりプロジェクト

- 地域交流センターを中心とした社会教育講座や交流行事等の取り組みによる地域人材の育成
- 多様な主体が活躍する地域活動の促進



03 安心して暮らせる地域の基盤づくりプロジェクト

- 地域交流センターにおける関係機関と連携した包括的な相談体制の充実・機能強化
- 地域交流センターを中心とした日常生活機能の集積化・地域の拠点づくりの推進



大内地域で行われている通学路の見守り活動の様子

-協働によるまちづくり特集-

地域と共に進めるまちづくり

協働推進課 ☎ 083-934-2981

近年、少子高齢化の進展やライフスタイルの変容をはじめとする社会環境の変化によって、防災や福祉等の地域課題は多様化しています。これからも、将来にわたって安心して暮らし続けられるまちを実現していくためには、あらゆる世代の人々が、地域への愛着や思いを共有し、多様化した地域課題に対して、市民と行政、また市民同士が協働(*)してまちづくりに取り組むことが大切であると考えています。

■第二次山口市協働推進プランとは

市民・関係団体が行政と協働することにより、個性豊かで活力のある自立した地域社会を実現するため、目指す地域像の目標や施策を示したもので、平成30年3月に策定しました。

これまでプランに基づいて、地域での話し合いの場を活性化させるための人材育成や、地域を支える体制の構築としての地域交流センターの機能強化の取り組みなどが進んでいます。

▶右の二次元コードから、プランと後期推進計画の全文を閲覧できます。



※「協働」とは、お互いの特性を尊重しながら、課題の解決に向けて共に力を合わせて取り組むことです。

民の参加と協働によるまちづくりを推進しています。この度、社会情勢の変化やデジタル技術の活用等の新たな課題にも対応し、市内21地域の課題にしっかりと向き合うために見直しを行い、令和5年度から令和9年度までの5年間で計画期間とする「後期推進計画」を策定しました。

今回は、後期推進計画の内容と協働によるまちづくりの実現に向けた本市の取り組みを紹介します。

地域の「活動」を支える

自治会・町内会は、地域住民の皆さんによって自主的に運営されている一番身近な自治組織で、住民同士の親睦や子どもの安全、福祉等、地域住民のより良い暮らしの実現に向けて活動を行っています。

しかし、近年、ライフスタイル・価値観の多様化や人口減少・少子高齢化等により、地域での活動に関わる人が減少し、自治会等の会議や親睦行事等の取り組みがこれまで通り運営できなくなる等、地域活動の継続や自治会等の地域コミュニティの維持が課題となっています。

市では、地域コミュニティを維持するために、自治会等の運営上の課題解決に向けて、地域コミュニティ同士が課題や取り組みの事例を共有しながら、活動の参考とするための研修会を開催するなどの支援を行っています。加えて、地域活動の効率化を図るため、スマートフォンをはじめとしたデジタル機器の活用支援教室の開催等、デジタル技術の活用による地域活動の支援を進めています。



▲地域での防災訓練の様子。自主防災組織は、避難の誘導等により被害の予防・軽減を図ります。



▲地域交流センターで開催されたスマートフォン活用講座の様子

また、災害が発生したときに被害の拡大を防ぐためには、自身や行政の力だけでなく、地域内での相互の助け合いによる防災活動が大変重要です。

市では、地域における自主防災組織の結成を促進し、活動を支援するとともに、災害時に地域住民同士で避難を呼びかける率先避難の体制づくりを促進しています。

さらに、地域づくり協議会の自主性や自立性を高めるため、地域づくり交付金制度の継続などの支援を行います。

この交付金は、市内21地域の地域



▲白石地域の「親子ミニちょうちん祭り」の様子。伝統文化を通じ、住民間の交流を促進するイベント。



▲佐山地域の「フラワーロード花壇整備」は、環境美化と世代間交流の場となっています。

づくり協議会が行う、地域課題の解決に向けた取り組みに対する支援で、「地域振興」「環境づくり」「地域個性創出」等の分野ごとに、各地域の特色ある活動に活用いただいています。

地域を担う「人」を育てる

全国的に自治会等の役員の高齢化や固定化により、地域コミュニティにおける後継者不足が喫緊の課題となっています。

市では、地域の未来を担う人づくりを推進し、担い手の発掘、育成につながるため、社会教育の充実や教育機関と連携した学習機会の提供を図っています。

特に地域交流センターを中心に取り組む社会教育事業では、地域住民の関心が高いテーマ等について、さまざまな立場の方が参加できる学び

の場を提供することで、学びを通じて「人と人とのつながりづくり」を進め、地域活性化や地域課題の解決につなげていきます。

また、地域コミュニティ団体の役員等を対象に、地域づくりに必要な知識や技術を学ぶための研修を開催し、人材育成と地域での話し合いの活性化を推進していきます。



▲地域づくりコーディネーター養成講座の様子

インタビュー 「地域の魅力を知ってほしい」

インタビュー



大内まちづくり協議会事務局長 あべ しょうじろう 阿部 正二郎さん

大内まちづくり協議会は、地域住民や団体が「共に支え合う」ことを意識して活動を行っています。また、次代を担う子どもたちへの支援に力を入れており、近年では、地域の学校に通う子どもたち自身が、地域の未来について考える場「子ども未来プロジェクト」を企画し、大内地域の良さや課題について話し合いを行っています。

その中で出た「地域にどんな企業や仕事があるのかよく分からない」という意見から始めた取り組みが、「おうち産業フェア」です。これは、大内地域に事業所がある企業等に、事業内容の紹介や生製品の販売、体験講座等をしてもらうイベントで、地域の魅力的な企業や仕事を住民の方に知ってもらうきっかけづくりができました。

目標は「持続可能な運営ができる地域」です。今後も、若い方や新しく大内地域にきた住民の方にも、積極的に地域の活動に参加してもらえる取り組みを行っていきたいです。



▶「おうち産業フェア」の様子。ものづくり体験ブースでは、参加者が木材の加工を体験しました。

学びの場を通じた仲間づくり

市では、持続可能な地域社会の実現に向けて、学びの場を通じた「人」と「人」とのつながりづくりを支援しています。

仁保地域交流センターで行われている「仁保里山体験事業」では、地域内の緑地公園を活用し、参加者である地域住民が企画や準備等の運営に関わりながら、野外料理や工作等のイベント、体験講座等を実施しています。参加者自らが意見を出して、実際に運営に関わることで、地域活動に参加する仲間づくりや地域への愛着を持つきっかけづくりを目指します。



◀参加者が準備した、地域の子ども向けアトラクションの様子



▶協力して運営を行うことで、参加者同士のつながりが生まれます。

地域の「拠点」を整備する

地域交流センターは、地域のさまざまな情報が集まり、住民にとって身近な存在として、地域の拠点となる存在です。令和4年に行った市民アンケートの結果によると、地域交流センターの機能として、窓口での申請手続の拡充とともに、介護や子育てなどの困りごとの相談機能の充実が求められています。



▲地域交流センターで相談を受け付ける様子

また、人口減少や高齢化が進む農村エリアにおいては、医療機関の減少等の地域に必要な生活サービス機能の低下が大きな課題となっています。

地域の生活を支える拠点づくりとして、地域づくり、地域福祉、地域防災などの拠点となる地域交流センターの整備や地域交流センターを中心とした日常生活圏に必要な機能の

強化や複合化の取り組みを進めています。



▲徳地地域複合型拠点施設では、地域交流センターと共に診療所を併設しています。

湯田地域交流センターの増改築工事完了

湯田地域交流センターの増改築工事が完了し、8月から供用を開始しました。

この度の工事では、施設の機能強化や利便性の向上を図るため、会議室の新設や相談体制の充実に向けたセンター事務室の拡張、バリアフリートイレの整備等を行いました。併せて、シャワー室設置による避難所機能の強化や照明のLED化等による施設の省エネルギー化を行っています。



なお、外観は、整備予定の「(仮称)湯田温泉パーク」をはじめとした湯田温泉の街並みとの調和を考えたデザインとしています。



▶情報発信や交流の場となるエントランスホールは、開放的で明るいつくりとなっています。

みんなが集まる地域づくり

地域で暮らしやすい環境づくりを進めていくためには、市民の皆さんや地域コミュニティ、市民活動団体等との連携・協力が不可欠です。特に地域コミュニティでは、あらゆる世代の暮らしの支え合い、防災・防災等、地域の課題をどう克服していくかを話し合い、協力して取り組むことで、自分たちの地域を自分たちでつくる「自治の力」につながることから、市としても話し合いの場づくりを推進しています。

また、今回ご紹介した取り組み以外にも、若者の地域づくりへの参加促進や市民活動団体・事業者との連携など、あらゆる主体が地域づくりに参加し、「共に話し、共に汗をかく」協働によるまちづくりを進めています。ぜひ、皆さんも地域の活動や地域交流センターで行っているさまざまな行事等に参加してみてください。



協働推進課主任主事 広岡 圭介

オレンジサポーターの声



オレンジサポーター
まつまさ しげる
松崎 茂さん

活動のきっかけは？

認知症の方が増加傾向にあり、自分もなり得る可能性があることから、認知症に関心を持ち、学びを深めるようになりました。そして、何か自分にもできることをしてみたいという気持ちで活動を始めました。

普段はどのような活動をしていますか？

月に1回、認知症カフェ「カフェかわばた」で参加者の方とお話をしたり、一緒に歌を歌ったりしています。また、参加者の皆さんが興味・関心のありそうな雑学や、これまでの自分のボランティア活動の経験などをお話することもあります。活動のサポートというよりは「自分も一緒に楽しむ」をモットーに活動しています。

▲参加者と工作を楽しむ松崎さん

どのような思いをもって活動していますか？

活動では、手をつなぎ寄り添い、一緒にお話をするのが大切だと思います。相手の話を耳を傾けてしっかりお話を聴くことはもちろん、一緒に楽しい時間を過ごせるように、自分からも色々なお話をしています。参加者の方から声をかけていただいたり、しばらく参加できなかった時に「どうしちよるんかと思っちゃったよ」と言われたり、顔なじみの関係になれていることも嬉しいですね。

今後どんな活動に力を入れたいですか？

これまでの経験を生かして、体操など体を動かすような活動も行っていきたいです。そして、地域の方が気軽に集えるような認知症カフェの運営にも携わっていきたくです。悩んでいる認知症の方やそのご家族に、一歩外に出ていただき、何かあれば声を掛け合えるような地域になってほしいと思います。

ご参加
ください！

山口市認知症講演会
「認知症とともに笑顔で生きる～自分らしく活躍できる地域を目指して～」

日時 10月7日(土) 13時～16時
場所 山口県健康づくりセンター(吉敷下東三丁目1-1)
内容 講演「私が認知症になったら」、チームオレンジ・認知症カフェの取り組み紹介、仁保中学校総合文化部生徒による紙芝居、認知症と共に生きる方の発信 など

講師 中山寛人氏(医療法人水の木会下関病院認知症疾患医療センター長)、阿部俊昭氏(本市在住認知症当事者)
申 9月29日(金)までに、市ウェブサイト申込フォーム(右の二次元コード)、電話、市ウェブサイト掲載「参加申込書」に必要事項を記入の上、FAX、郵送、持参のいずれかで、高齢福祉課 ☎ 083-934-2758 FAX 083-934-2647



地域で見守る「認知症」 ～広がる支え合いの輪～

厚生労働省の推計によると、現在、65歳以上の方の4人に1人が認知症または認知症予備軍と言われており、認知症は、誰もがなり得る身近な病気と考えられています。認知症の方やそのご家族が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、認知症について正しく理解し、温かい目で見守ることが大切です。

今回は、こうした「地域の応援者」の輪を広げるための本市の取り組みを紹介します。

問 高齢福祉課 ☎ 083-934-2758

地域の応援者「認知症サポーター」

認知症サポーターは、認知症について正しく理解し、認知症の方やそのご家族を温かい目で見守る「応援者」です。市では、幅広い世代の方に認知症のことを知ってもらうために、地域の団体、学生、事業所などを対象に、「認知症サポーター養成講座」を開催しています。

令和5年8月時点で、市内の約1万6000人の方が認知症サポーター養成講座を受講されています。地域にこうした応援者が増えることは、認知症の方やそのご家族にとって大きな安心につながります。

認知症サポーターになりませんか？

「認知症サポーター養成講座」は、どなたでも受講が可能です。地域の団体、職場、学校、PTA活動など、おおよそ10人以上のグループで、高齢福祉課またはお近くの地域包括支援センターへお申し込みください。



学校で行った講座の様子

▼時間 90分～2時間程度(要相談)
▼内容 「認知症とは？」(認知症の症状、認知症の方と接するポイント等)、「認知症サポーターとは？」

詳しくはこちら▼



オレンジサポーターの活躍
一歩進んで、できること

認知症サポーターの中で、認知症サポーターステップアップ講座を受講し、一歩進んだ認知症サポーターとして地域でのボランティア活動等を行っている方を「オレンジサポーター」と呼んでいます。令和5年8月時点で、市内に69人のオレンジサポーターがいます。オレンジサポーターは、認知症サポーター養成講座での普及啓発活動に協力したり、認知症の方やそのご家族、地域住民などが気軽に集い、歓談や情報交換をする「認知症カフェ」でのボランティアに参加したりするなど、地域で活躍しています。

広げようチームオレンジの輪

市では、こうしたオレンジサポーターの活動や、認知症の方の希望を尊重した認知症カフェでの活動等を推進し、認知症の方やそのご家族を地域が一体となって支え合う「山口市版チームオレンジ」の構築を進めています。

認知症の方やそのご家族をさりげなく見守ったり、困っている様子の方に優しく声をかけたりすることも、サポート活動の一つです。より多くの皆さんに、認知症への理解を深め、温かく見守る応援者になっていただくことで、「チームオレンジ」の輪を広げていきます。

「山口市版チームオレンジ」の構築イメージ



私たちも、認知症サポーターです！



大内地区民生委員
つづいひろこ
筒井洋子さん

認知症の症状や、どのように対応したらよいかを講座で学びました。認知症の方やそのご家族が症状に気がつかないこともある、というのは新たな発見でした。

民生委員として活動する中で、気軽に話ができる認知症カフェやいきいきサロンなどの日には、電話をかけてお知らせしています。以前とどこか様子が違う、少し気になる方がいたら、自宅に行ってお話を聞いてみることもあります。認知症の方と接する時には、相手がどう思うかを考えながら優しく話しかけて、本人のペースを大切にすることを心がけています。認知症の方が地域で安心して生活できるように、見守っていきたくです。



山口県庁内郵便局
ふじわら
藤原課長代理(写真前列中央)

お客様に末永く安心して郵便局をご利用いただくためには、社員一人一人が認知症に対する正しい知識と理解を深め、寄り添える存在になることが必要だと考えたことが受講のきっかけです。

普段の窓口業務では、はっきり、ゆっくり話すことや、様子を見守りながら、一緒に一つずつゆっくりと作業することを意識しています。行政の関係機関とも連携しながら、地域のお客様の見守りすることに新たな喜びを感じています。これからも、できる範囲で、穏やかに暮らせるお手伝いをしていきたいです。



川西中学校ボランティアサークル
「きずな」の皆さん

講座を受講して、認知症は生活の中で色々なことに不安を持った、困ったりすることが増えるんだな、と思いました。優しく声をかけて、安心させてあげることが大切だと感じました。

認知症サポーターとして、地域の方に明るくあいさつをしたり、困っている人がいたら声をかけたりするのはできそうだなと思いました。



地域のボランティア
交えたグループワークの様子▶



圏域7市町のイベント情報

美祢 美祢線マルシェ～於福駅～

飲食物の販売やトックトックの乗車体験、キッチンカーの出店などを行います。鉄道代行バスで来場しクイズに正解した先着100人に、500円分のチケットをプレゼントします。

日時 9月9日(土) 16時～20時
場所 於福駅(於福町下2863)
問 JR美祢線利用促進協議会 ☎ 0837-52-1128

萩 謎解きウォークラリー2023～試行錯誤を重ねた先には～

謎解きを楽しみながら世界遺産について学んでいただけるウォークラリーです。

期間 9月18日(月・祝)まで
場所 萩市内の「明治日本の産業革命遺産」の5資産、世界遺産ビジターセンター(萩・明倫学舎2号館)
問 萩市世界遺産活用推進協議会 ☎ 0838-25-3299

津和野 秋のつわの鯉・恋・来いまつり

吹奏楽等のステージイベントや石見神楽上演、「芋煮」や栗などを楽しめます。豪華プレゼントの当たるスタンプラリーで秋の津和野のまち歩きをお楽しみください。※荒天時中止

日時 9月24日(日) 10時～15時
場所 殿町通り、津和野駅等
問 津和野町商工会 ☎ 0856-72-3131

山陽小野田 大人の社会派ツアー「サッカーとゴルフのまち、山陽小野田」

日時 11月14日(火) 8時50分～17時30分
集合場所 山陽小野田市役所(日の出一丁目1-1)
定員 先着16人(10月31日(火)までに要事前申し込み)
問 宇部・美祢・山陽小野田産業観光推進協議会事務局(一社) 宇部観光コンベンション協会 ☎ 0836-34-2050

宇部 第30回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展) 応募作品展

第30回UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)に向け、一次審査に寄せられた野外彫刻模型を全て公開する展覧会です。

日時 9月24日(日)～10月22日(日) 10時～17時(最終日は15時まで)
場所 ときわ湖水ホール(大字沖宇部254)
問 宇部市文化振興課 ☎ 0836-34-8562

防府 企画展「毛利輝元生誕470年記念(2)毛利輝元の国づくりー関ヶ原と長州藩の誕生ー」

毛利輝元がどのように関ヶ原の敗戦を乗り越え、260年に及ぶ長州藩の安定をもたらしたのか紹介します。

日時 9月9日(土)～10月22日(日) 9時～17時(入場は16時30分まで)
料金 大人700円、小中学生350円(博物館・庭園共通大人1,000円、小中学生500円)
所問 毛利博物館(多々良一丁目15-1) ☎ 0835-22-0001

知れば、もっと楽しい!



見どころガイド vol.4

問 山口情報芸術センター [YCAM] ☎ 083-901-2222

日本最強の爆音上映

YCAMは開館以来、館内の上映設備で映画上映を続けています。開館から10年が経った2013年、館内の劇場空間であるスタジオAにおいて「爆音上映」がスタートしました。

この「爆音上映」とはライブ・コンサート向けの大規模かつ高品質なスピーカーを用いて映画を鑑賞するもので、映画評論家の樋口泰人の監修のもと、国内外で「爆音映画祭」として開催されています。

YCAMでの爆音上映の会場となるスタジオAは、高いクオリティでライブコンサートなどを実現できる場所です。一般社団法人日本音響家協会が顕彰する「音響家が選ぶ優良ホール100選」に中国四国地方では唯一選ばれている



「YCAM 爆音映画祭 2022」の様子

ホールでもあります。ここで毎年夏に「YCAM 爆音映画祭」が開催されています。

今回は、『バーバリ』で知られるラージャマウリ監督の最新作『RRR』などが登場。また、無声映画に合わせて演奏する無声映画ライブ上映や、新鋭・甫木元空(ほきもと・そら)監督『はだかのゆめ』の上映後に、ミュージシャンとしても活動する甫木元のライブとトークイベントも開催します。繊細かつ大迫力の音響に身を委ねながら、映画を鑑賞することを通じて、これまで気づくことのなかったサウンド面の「核心」を、物語や、画面上の構成とともに体感できるでしょう。この機会にぜひご鑑賞ください。



今回の上映作品のひとつ『RRR』
©2021 DVV ENTERTAINMENTS LLP. ALL RIGHTS RESERVED.

会場には、親子連れや鉄道ファンの方々が訪れ、開通100周年記念の期間限定オリジナルヘッドマークを取り付けたDLやまぐち号と一緒に写真を撮る姿が見られました。



▲出発式であいさつをする市長

市長は「市内で床上・床下浸水合わせて630件を超える被害が出ている。見舞金の交付は本来にありがたく感じており、災害復旧のために有効に活用させていただく」と感謝の意を述べました。

本災害見舞金は、大雨等の災害により災害救助法の適用を受けた市町に同協会が交付するもので、7月25日(火)に市役所で行われた交付式では、同協会の国井益雄理事長(下松市長)から市長に500万円の目録が手渡されました。



▲国井理事長(左)から目録を受け取る市長(右)

6月末からの大雨による災害を受けた本市に対し、公益財団法人山口県市町村振興協会から、災害見舞金が交付されました。

山口県市町村振興協会から災害見舞金の交付を受けました

角一化成株式会社事業所設備増設協定調印式を行いました

8月3日(木)、角一化成株式会社と本市が、県の立ち会いのもと、事業所設備増設協定の調印式を行いました。



▲左から、市長、山口県の縄田企業立地統括監、角一化成株式会社の小島代表取締役社長

調印にあたり、市長は「事業所設備増設は、本市の企業誘致の推進を通じた商工業・サービス業の活性化や若者が活躍するまちづくり、多様な雇用の場の創出等の取り組みを加速させ、地方創生の取り組みにもご貢献いただけると大いに期待しています」とあいさつしました。

表紙の写真 想いが作る、地域の文化

表紙の写真は、7月下旬に開催された山口祇園祭の様子です。山口祇園祭は、室町時代に大内氏が京都から勧請した八坂神社の例祭で、今年は4年ぶりに担ぎ手の皆さんによるおみこしの練り歩きと市民総踊りが開催されました。御旅所からおみこしが出発すると、沿道の人々が足を止めて声援を送り、担ぎ手の元気な掛け声と合わさって、約600年続く伝統ある祭りの雰囲気を感じました。



7月24日に行われた市民総踊りの様子。約1,200人が中心商店街を踊り歩きました。

祭りのような地域の行事が続いていくためには、それを担う人の力が必要です。人の「想い」が祭りを作り、「思い出」として人々の記憶に残ることで、あらゆる世代の人が地域への愛着を持つきっかけとなる。そんな大切な存在である地域の文化を、これからも残していきたいと感じました。



新型コロナワクチン接種に関するお知らせ

～「令和5年秋開始接種」について～

本情報は8月16日時点のものです。変更等の可能性がありますので、最新の情報は市ウェブサイトをご覧ください。市ウェブサイトは各地域交流センターと分館でも閲覧できます。



【お問い合わせ先】

山口市接種予約・相談センター（平日9時～17時、多言語対応） ☎ 083-976-6420 FAX 083-921-2672

「1・2回目接種が完了した5歳以上の全ての方」のうち、希望される方は無料で接種を受けることができます。

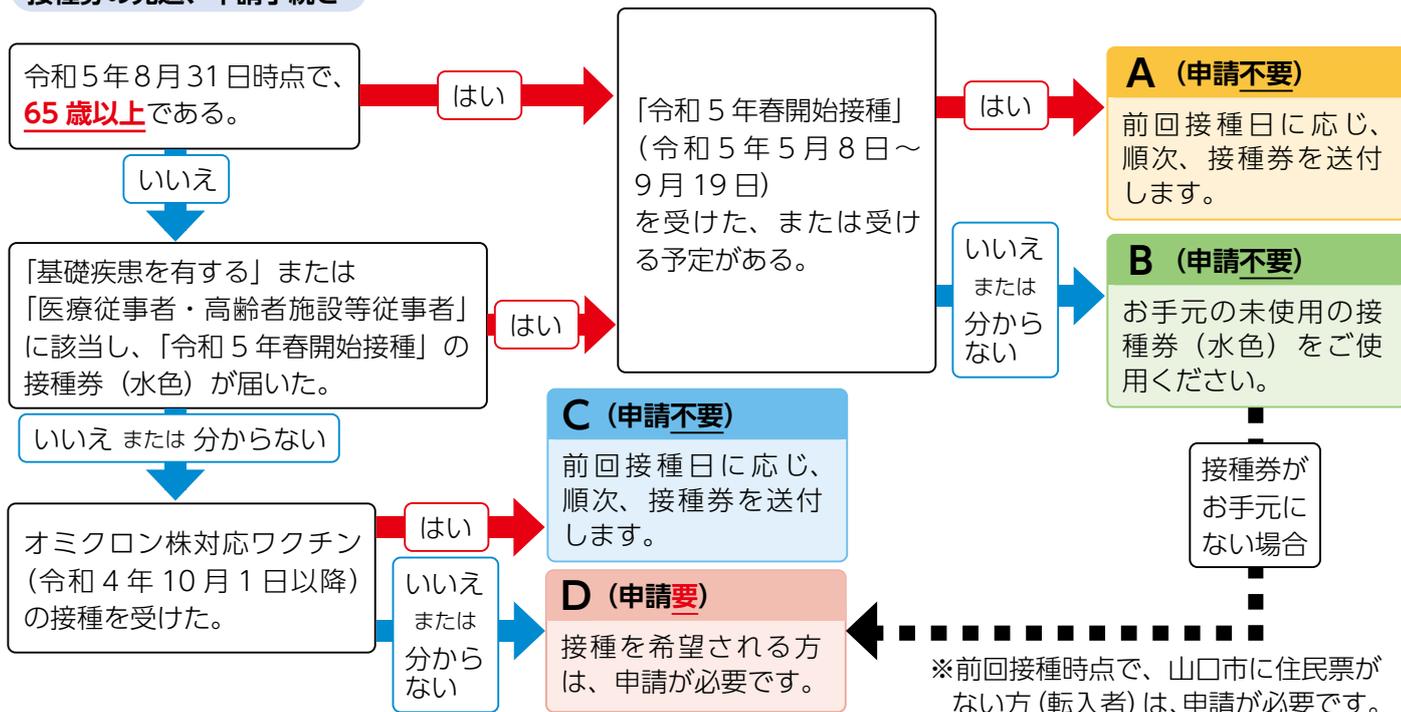
接種期間

9月20日（水）～令和6年3月31日（日）

使用ワクチン

オミクロン株 XBB.1.5 対応1価ワクチンの使用を基本とする。

接種券の発送、申請手続き



【A・Cの方】

9月上旬から、順次発送予定です。詳細は、市報やまぐち9月15日号と同時配布のちらしでお知らせします。

【Bの方】

お手元の接種券をご使用ください。

【Dの方、前回接種後に転入された方】

接種を希望される方は、申請が必要です。次のいずれかの方法で、申請してください。

（住民票に記載の住所以外への接種券送付を希望される方は、「郵送」申請のみ）

- ・電子申請…右の二次元コード、または「山口市 コロナワクチン 秋開始」で検索し、専用の申請フォームに入力してください。
- ・郵送申請…所定の申請書に記入の上、新型コロナウイルス感染症対策室（〒753-0079 糸米二丁目6-6）に郵送してください（申請書は、各保健センター、市ウェブサイトでも入手可）。
- ・電話申請…山口市接種予約・相談センター（☎ 083-976-6420、平日9時～17時）にお電話ください。

人生100年時代の元氣活躍のまちづくり

厳しい残暑が続いています。皆さん体調には十分に注意してお過ごしください。

さて、今年9月18日に敬老の日を迎えます。

私たちが、今こうして、暮らしやすく、豊かな生活を送ることができ、すも、長年にわたり、先輩方が地域社会の発展等に御尽力いただいたおかげです。

今年度は、久しぶりに敬老会を開

催される地域も多くあると伺っており、ありがとうございます。この機会に、私からも皆様に日頃の感謝の気持ちを伝えるとともに、長寿のお祝いをさせていただきます。たいと思います。



今、人生100年時代とも言われています。本市では、あらゆる世代の皆様が、生涯にわたり元気で健康に活躍し、幸せに暮らしていけるよう、生涯学習や社会教育の充実に取り組んでいます。

皆様の人生を豊かにする「生きがい」を、健康づくりや学びの中で見つけてみませんか。地域交流センターや市の施設等で行われるいろいろな講座やイベントに、お気軽に参加してみてください。

山口市長 伊藤和貴

